

総合型選抜 2023 年度過去問題 経済学科

次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) 日本は正社員で働く負担があまりにも重い。日常的に残業があり、定時で帰れることは少ない。国内外の転勤は家庭生活との両立が難しい。そのしわ寄せが女性に偏る。

月 34 万円と月 25 万円。賃金構造基本統計調査による、男性と女性の所定内給与の平均だ。いずれもフルタイムで働いている場合の値だが、それでもこれだけの違いがある。収入の少なさと無償労働の多さはコインの両面だ。

「男性は仕事、女性は家庭」。この分業意識が強ければ、女性が外で働くハードルは高くなる。(2) 出産を機に多くの人が退職し、正社員として再就職できても勤続年数は短くなる。実際には多くが非正規だ。一方、こうした分業のもとでは男性は長時間働くことができる。それが職場の標準であればあるほど、女性が力を発揮する道はますます狭まってしまう。

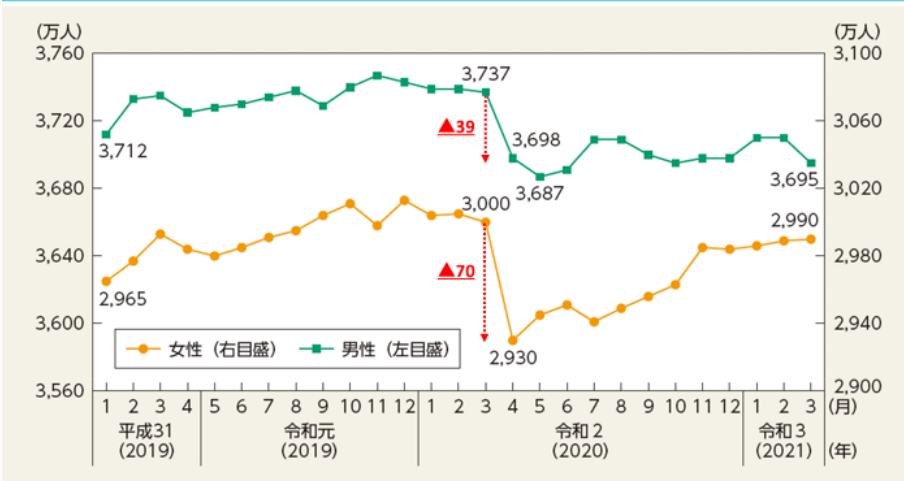
日本の変化はゆっくりだった。オイルショックで高度経済成長こそ終わったが、成長期に定着した分業システムは健在だった。(3) 終身雇用と年功序列を基本にした日本型の経営は 1979 年出版の『ジャパン・アズ・ナンバーワン』でも評価され、変える必要を感じにくかったかもしれない。

1985 年に男女雇用機会均等法が成立した。しかし、その同時期に (4) 男女分業を前提にしたいいくつかの税・社会保障制度もできた。アクセルとブレーキを同時に踏むような状況だ。(5) 仕事の量をセーブする女性はいまも多い。女性の力を十分に生かせないのは社会にとっても損失だ。

(出典) 辻本浩子 日本経済新聞「中外時評 賃金格差解消へ『男女分業』変えよう 年金額にも影響」(2022 年 5 月 3 日)
日本経済新聞社より許諾済。無断複写・転載を禁じます。問題作成に当たり、一部改変。

問 1 図 1 について、緊急事態宣言が発令された 2020 年 4 月において、前月と比べて男性よりも女性の就業者数が大幅に減少している（男性：39 万人減少、女性：70 万人減少）のはなぜだろうか。図 1 から読み取れることに加えて、正規雇用あるいは非正規雇用の視点から 80～100 字で説明しなさい（字数には句読点を含む）。

図1 コロナ禍前後の男女別就業者数の推移



(資料)内閣府男女共同参画局(2021 年)『令和 3 年版男女共同参画白書』より抜粋

問 2 表 1 について、コロナ禍前後で「男性の仕事時間が減少している」「男性の育児時間が増加している」傾向から「2019 年よりも 2020 年の方が男性の育児参画が進んだ」という単純な意見に陥りがちである。こうした単純な意見に対してどのような反論がありうるだろうか。表中のいずれかの時間の増減傾向（変化がない場合も含めて）に注目して 180～200 字で書きなさい（字数には句読点を含む）。

表1 コロナ禍前後の1日の時間の過ごし方

夫婦と子供から成る世帯 (有業者)(仕事のある1日)		令和2(2020)年度 調査	令和元(2019)年度 調査	時間の増減
仕事時間	女性	6時間42分	7時間18分	-36分
	男性	9時間09分	9時間34分	-25分
家事時間	女性	2時間29分	2時間31分	-2分
	男性	0時間50分	0時間49分	+1分
育児時間	女性	2時間13分	1時間43分	+30分
	男性	0時間55分	0時間31分	+24分
介護時間	女性	0時間49分	1時間02分	-13分
	男性	0時間41分	1時間06分	-25分

(資料)内閣府男女共同参画局(2021 年)『令和 3 年版男女共同参画白書』より抜粋
(注)2019 年 12 月調査及び 2020 年 11～12 月調査

問3 表2は1980年と現在との家族構成の変化を示しているが、(a) (b) (c) に最もふさわしい組み合わせを1つ選んで記号で答えなさい。

- (ア) (a) 夫婦のみ (b) 単独 (c) 3世代など
 (イ) (a) 夫婦のみ (b) 3世代など (c) 単独
 (ウ) (a) 単独 (b) 夫婦のみ (c) 3世代など
 (エ) (a) 単独 (b) 3世代など (c) 夫婦のみ
 (オ) (a) 3世代など (b) 単独 (c) 夫婦のみ
 (カ) (a) 3世代など (b) 夫婦のみ (c) 単独

表2 家族の姿の変化

1980 年	2015 年	2020 年
夫婦と子供 15081 千世帯 42.1%	(b) 18418 千世帯 34.5%	(b) 21151 千世帯 38.0%
(a) 7124 千世帯 19.9%	夫婦と子供 14288 千世帯 26.9%	夫婦と子供 13949 千世帯 25.0%
(b) 7105 千世帯 19.8%	(c) 10718 千世帯 20.1%	(c) 11159 千世帯 20.0%
(c) 4460 千世帯 12.5%	(a) 5024 千世帯 9.4%	ひとり親と子供 5003 千世帯 9.0%
ひとり親と子供 2053 千世帯 5.7%	ひとり親と子供 4748 千世帯 8.9%	(a) 4283 千世帯 7.7%

(資料)内閣府男女共同参画局(2022年)『女性活躍・男女共同参画の現状と課題』より作成

問4 下線（1）について、厳しい日本の労働環境に関連して、労働条件の最低基準を定めた「労働基準法」のほか、労働三権を保障するための「労働組合法」、労働争議の予防と解決を図る「労働関係調整法」をあわせて「労働□法」と言うことがある。□に最も適切な漢字一文字を答えなさい。

問5 下線（2）について、出産を機に退職を決断する女性も少なくないが、夫婦が理想の子ども数を持たない理由、すなわち理想より実際の子ども数が下回る理由として最もふさわしくないものを1つ選んで記号で答えなさい。

- (ア) 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
- (イ) 高年齢で生むのが嫌だから
- (ウ) 子供をしかってくれる人がいないから
- (エ) 健康上の理由から
- (オ) 自分の仕事に差し支えるから
- (カ) 家が狭いから
- (キ) これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから

問6 下線（3）について、日本的労使関係（日本的雇用慣行）に言及していますが、「終身雇用制度」と「年功序列賃金」以外のもう一つの特徴は何か。最もふさわしいものを1つだけ選んで記号で答えなさい。

- (ア) 高度経済成長
- (イ) 知識集約型産業
- (ウ) 企業別組合
- (エ) バブル経済
- (オ) 日本銀行の独立性
- (カ) 下請け制度
- (キ) ジャパン・アズ・ナンバーワン

問7 下線（4）について、この文章が伝える夫婦の男女分業に最もふさわしいものを2つだけ選んで記号で答えなさい。

- (ア) 残業が多い夫の帰りが遅いので、いつも妻が夕食を作る。
- (イ) 妻が旅行計画を立てて、夫が支払う。
- (ウ) 掃除と料理は夫が担当し、洗濯と家計管理は妻が担当する。
- (エ) 現在の仕事で必要だから、夫は早朝のプログラミング講座に通い、いつも妻が保育園に子供を送る。
- (オ) 夫婦ともに在宅リモートワークをしているが、子供の勉強はいつも夫がみている。
- (カ) 4月から妻は働きながら夜間大学院に通い始めたので、夫の家事負担が増えた。
- (キ) 夫が自治会役員を担い、妻がPTA役員を担う。

問8 下線（5）について、日本の社会では人々の働き方に関する意識や環境が社会経済構造の変化に必ずしも適応しきれず、仕事と生活が両立しにくい現実直面していると言われている。そこで「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」を目指すことを何というのか。最もふさわしい用語を1つ選んで記号で答えなさい。

- (ア) ワーカーズ・コレクティブ
- (イ) 生活と生命の質
- (ウ) ワーク・シェアリング
- (エ) 労働生産性
- (オ) ワーキング・プア
- (カ) 労働力の商品化
- (キ) ワーク・ライフ・バランス
- (ク) 幸福追求権

問9 男女の賃金格差解消に向けて、400字以内であなたの具体的提案を書きなさい。問題文で示された「男女分業」に必ず言及すること（字数には句読点を含む）。